



〔©霞ヶ浦帆引き船フォトコンテスト入賞作品（霞ヶ浦帆引き船まつり実行委員会）〕

今月の1枚

霞ヶ浦帆引き船と筑波山

流域面積2,156.7km²、茨城県全体の35%を占める霞ヶ浦は、西浦・北浦・外浪逆浦・北利根川・鰐川・常陸川の総称で、湖としては琵琶湖に次ぐ2位の面積で、地域の生活や産業の基盤をなしています。

霞ヶ浦の風物詩である「帆引き船」。2001(平成13)年1月、読売新聞社と一般財団法人休暇村協会が主催した「訪ねてみたいー21世紀に残す日本の風景遺産100選」に茨城県内で唯一選ばれました。

そのことをきっかけに、かすみがうら市では、まちづくり100人委員会のメンバーが中心となり、「霞ヶ浦帆引き船まつり実行委員会」を組織し、毎年フォトコンテストや模型作り教室などのイベントを開催し、帆引き船の伝承と霞ヶ浦観光のイメージアップに力を注いでいます。

帆引き船を使った帆引き網漁は、1880(明治13)年、シラウオ漁を目的に、坂村二ノ宮(旧霞ヶ浦町・現かすみがうら市)の折本良平氏によって考案されました。20人以上必要だった従来の漁法に比べ、一人で操業できる画期的な漁法として、折本良平氏自ら周辺の漁民たちに伝えたことで、瞬く間に広がり、数千人の漁民が生活の安定を得たとされます。その後ワカサギ漁の主演として操業した帆引き船は、1965(昭和40)年頃からトロール船に取って代われ姿を消してしまうまで、霞ヶ浦漁業の花形として一世を風靡しました。

風のない日には漁をせず、霞ヶ浦の自然の摂理を大切にされた帆引き船は、風の原理を応用し船を横に流して漁を行う世界唯一の漁船であり、霞ヶ浦が世界に誇る文化遺産といえます。

1971(昭和46)年には、「観光帆引き船」として復活。
毎年、7月下旬から11月下旬にかけての休日には、霞ヶ浦沿岸3市(土浦市、かすみがうら市、行方市)から遊覧船が出航します*1。雄大な霞ヶ浦に白い帆を上げ、優雅に走る帆引き船を楽しんでみてはいかがでしょうか。



- ◆ JR常磐線「土浦駅」より、約20km・車で約35分
- ◆ JR常磐線「神立駅」より、約15km・車で約25分
- ◆ 常磐自動車道「土浦北IC」より約20km・車で約30分
- ◆ 常磐自動車道「千代田石岡IC」より約22km・車で約35分

*1 「観光帆引き船」の操業日程は3市のホームページ等の観光情報でご確認願います。